

テスト名	Versant™ English					
1. 運営事業団体	PEARSON					
2. テスト作成母体	PEARSON (Ordinate Corporationから移譲)					
3. 主たる受験対象者	第二言語学習者					
4. 目的	スピーキング能力(productive)の測定					
5. 構成概念の構成(測定する能力)	スピーキング能力、リスニング能力					
6. テストの性質(テキスト・タスクの性質など)	PartA 音読問題・8問 問題用紙に12個の英文が羅列されており、回答者は指示に従ってその英文を読み上げる。 例えば、「Please read No.3」のように指示が与えられた場合、その文を電話、マイクに向かって読み上げる。	PartB 復唱問題・16問 聞いた文章をそのまま言う問題。例えば "Leave town on the next train"と英文が読まれたら、出来る限り同じ英文を話す。	PartC 質問に答える・24問 質問は短文で提示され、常識で回答できる問題が設定される。 回答は簡潔に質問に対して正しい回答ができていれば良い。	PartD 文の構築・10問 聞こえてきたチャンクを再構成し、英語として正しい形に修正してそれを話す。 例えば、"was reading"… "my mother"… "her favorite magazine"と聞こえたら "My mother was reading her favorite magazine."と	PartE 話の要約・3問 聞いた話を要約し自分の英語で話すタスク。 状況・登場人物・行動・話の締めなどを含め30秒間で話す。	PartF 自由回答問題・2問 家族や自身のことなどについて質問がされる。質問は2回読まれ、その質問に対して40秒間で回答する。
7. 採点基準	文法・語彙・流暢さ・発音について分析的な評価が行われる。					
8. 項目数	8問	16問	24問	10問	3問	2問
9. 得点	各項目・総合点が20-80点で提示される。 総合点については、得点ごとにCan-doが公表されており、 20-25点:A1(CEFR)で定義されるよりも下位レベルである 26-35点:個人的なことや、よく知られたテーマについて述べることができる 36-46点:基本的な情報(仕事や経歴、家族、余暇など)について述べるができる 47-57点:身近な事柄において伝えたいことの要点を包括的に述べるができる 58-68点:大きな負担を感じさせることなく、情報や視点を明確に述べるができる 69-78点:流暢で自由な表現を、適切な構文を使って明確に話すことができる 79-80点:微妙な意味合いを正確かつ自然に伝達できる。					
10. 受験時間	15分前後					
11. 受験者数	非公表					
12. 受験料	5250円					
13. ウェブサイト	<a href="http://www.versant.jp/">http://www.versant.jp/</a> <a href="http://www.versanttest.com/">http://www.versanttest.com/</a>					
14. その他(変化・特徴など)	2007年までPhonePassという名称で行われていた。この他に児童向けのVersant Junior、その他の言語としてスペイン語、アラビア語、フランス語でも同形式の試験が行われており、ESPとして航空英語、またプロテストと称するスピーキングとライティングの試験もある。					

感想

電話やPC受験ができるため利用しやすい。結果がすぐにわかり、また、TOEICの予想スコアやCEFRレベルも提示されるので、学習者にとっては有難い。米国大使館への就職要件としても使われている試験だが、高得点をとるのはやや難しいと感じた。(Y.Y.)